

◆ その他 ◆

日緬パネル展

文化交流と人道支援  
—プラットフォームとしてのエンゲージド・ブディズム—

2021年10月26日(火)～11月8日(月)  
龍谷大学深草学舎和顔館1階ギャラリー



## パネル展の様子



## ❖ 概 要 ❖

2021 年 10 月 26 日（火）から 2021 年 11 月 8 日（月）の二週間、龍谷大学深草キャンパス和顔館 1 階ギャラリーにおいて日緬パネル展「文化交流と人道支援—プラットフォームとしてのエンゲージド・ブディズム—」が開催された。初日の 10 月 26 日にはオープニングイベントも開催され、パネル展を発案した三好慶祐氏（龍谷大学事務局長）と嵩満也氏（龍谷大学宗教部部長、国際学部教授）から挨拶と趣旨説明などがなされた後、担当研究員からパネルの概要が説明された。

パネルは三部構成となっており、第一章では龍谷大学とミャンマーの交流、特にアウン・サン・スー・チー氏の来校と本学学生が行ったミャンマーでの海外交流セミナーに焦点が当てられた。スー・チー氏が龍谷大学名誉博士教授を授与された際のスピーチでは仏教の思想と人権の尊重とのつながりや宗教をこえて様々な人に敬意を表することの大切さなどが語られた。スー・チー氏来校の翌年に開催された海外交流セミナーでは、本学の学生諸氏は観光地を巡るだけでなく、地方の村を訪れたり、現地で活躍する日本人のお話を聞いたり、現地の大学生と交流したりし、大変に充実した経験を得た。

第二章ではミャンマーの抱える諸問題のうちの二つを紹介した。一つはダウェイ経済特別区の開発事業に関連した環境問題、もう一つは 2021 年 2 月に起こったミャンマー国軍クーデターだ。世界仏教文化研究センターでは、2021 年 8 月 3 日に国際エンゲージド・ブディズム・ネットワーク事務総長のソムブーン・チュングプランプリー氏をお招きし、ミャンマー国軍クーデターについての緊急報告会を行ったため、この際に議論された問題を中心とした構成となった。

第三章の焦点はミャンマー支援活動団体とその活動内容だ。具体的には、アーユス仏教国際協力ネットワーク、日本ビルマ救援センター、国際エンゲージド・ブディズム・ネットワーク、メコン・ウォッチ、ミャンマー祈りと連帯のネットワーク、アジアのこどものデンタルケア、福岡・ミャンマー友だちの会、メラウーキャンプ教育支援の会の活動が紹介された。

来場者からは「写真から活動のイメージが伝わってきた」「ミャンマーに対して以前より親しみが持てるようになった」といった感想が寄せられた。